

開会あいさつ

埼玉県合同輸血療法委員会 代表世話人 前田 平生

皆さん、こんにちは。合同輸血療法委員会の代表世話人をしております、前田でございます。今日は、天候には恵まれましたけれども、お寒い中、しかも週末に、このようにたくさんの皆さんにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

埼玉輸血フォーラムは、今回で5年目ということになります。これまで、この委員会は埼玉県内の輸血医療を、安全で適正に行うということを推進してやってまいりました。そのために、委員会の下に二つの業務小委員会をつくっております。

パンフレットを見ていただくと分かりますが、輸血業務検討小委員会と自己血輸血小委員会の二つの小委員会で、実務的な事柄について検討をするということでございます。それについては、今日も第Ⅰ部としてご報告をさせていただきたいと思っております。

第Ⅱ部は、5年間の間に、輸血医療に関して、いくつかの進展がございました。そのうちのひとつが、看護師さんの輸血業務における役割です。従来より、輸血医療では、看護師さんに相当な役割を果たしてもらっていたのですが、それを学会のほうで認定制度のようなものをつくろうと。そういう意味では、採血から検査、そして、実際の輸血臨床の場というのも、その看護師さんで相当な役割を果たしてもらおうということで、いくつかの認定制度というものが始まりました。

今日は、そのうち二つの認定制度を、実際に認定を取っておられる看護師さんに、現状の報告をしていただく予定であります。

第Ⅲ部は、特別講演ということで、輸血をいかにして安全に行うかということに関しましては、やはり輸血の副作用、あるいは合併症というものを熟知して、実際行わなければいけないということでもありますので、「安全な輸血療法ガイド」というタイトルで、山口大学輸血部の藤井先生にお願いしております。まだお見えになっていませんが、おそらく今日、お話を聞いて、持って帰って、すぐにでも役立つ話をしていただけるものと思っております。

もう一つ、この5年の間に、大きな課題といえますか、分かってきたこととして、やはり今後10年ぐらいの間に、血液の需要と供給のギャップが、おそらく10%ぐらい足りなくなるのではないかというような予測がされております。現在も適正使用というものを、もうかなりのところまで進めているのですが、それでもやはり需要のほうが伸びているという現状があります。

これに対しての方策として、輸血フォーラムでも、これまで取り上げてきたのですが、やはり大量出血、あるいは大量輸血をする症例というのは、そういう施設では、だいたい赤血球が全使用量の20%ぐらい、凍結血漿に関しては30%使われています。ですから、このところをきちんと使用節減をしないと、なかなか需給ギャップというのは埋められるのが難しいのではないかとございます。

これに対して、諸外国では、より早期から凍結血漿を投与するとか、あるいは出血後の低フィブリノゲン血症に対しては、クリオプレシピテート

とかフィブリノゲン製剤というものを有効活用しています。そして、血液使用を半減できるというような報告が次々と上がってきております。

ところが、わが国においては、皆さんもよくご存じだと思いますが、新鮮凍結血漿というのは凍結していますから、500cc ぐらいを解凍するとなると、結構な時間がかかります。ですから、すぐさま投与するというのはかなり難しい。しかも解凍後、現在の添付文書では、3時間以内に投与しなければいけないということで、非常に使いにくいということがあります。

それから、出血後の低フィブリノゲン血症ということになりますと、クリオプレシピテートも、ご存じのとおり、国内では日赤のほうでつくっていません。実際は、いくつかの医療機関で必要に応じて、院内的にそのようなものを調製しているというような現状ですし、フィブリノゲン製剤に至っては、出血後の低フィブリノゲン血症に関しては適応がないというようなことが、現在の状況であります。

やはりこのところをもう少し、せっかく献血されて、血液の量はぎりぎりではありますが足りているのに、有効な製剤が供給できないというのが現状です。学会のほうでの調査、あるいは埼玉県合同輸血療法委員会の調査でも、これらの使用に関して、ぜひ皆さんと医療機関に関しては、調査票をお送りして、そして、できるだけ皆さんのご要望を集めたいと思っております。

今日、すぐにはできませんが、どのようにすれば、これらの製剤を有効利用できるかということに、来年、これからそのような方面に取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見とかご要望をいただきたいと、協力のほどをお願いしたいと思います。

お願いのあいさつで申し訳ございませんが、これから3時間半ぐらいですが、そのようないろいろな問題を抱えた中での輸血フォーラムということを考えていただきまして、議論に参加していただければと思います。

どうぞよろしくお願い致します。